

2023年スポーツピックアップ



女子やり投げ予選、北口選手の2回目の投てき

陸上・やり投げ（世界陸上）

8月25日、ハンガリーのブダペストで行われた陸上世界選手権の女子やり投げ決勝で、前回銅メダルの北口選手が66メートル73センチで金メダルに輝き、来年のパリ五輪日本代表の座も獲得した。

五輪を含め、日本女子のトラック・フィールド種目で金メダルは初めてで、世界選手権での日本女子の2大会連続表彰台も初めて。投てき種目の日本勢では2011年大会男子ハンマー投げの室伏広治さん以来、2人目の優勝となった。

4位で迎えた最終6投目で劇的な逆転をして優勝した北口選手は「絶対に負けたくないと思って（6投目に）臨んだ。つらいことはたくさんあるが、きょうだけは世界で一番幸せ。自分が世界で一番になれると信じて、やり投げを選んで競技してきた。すごく感慨深い」と話した。

北口選手が初の金メダル

8月

国民体育大会（鹿児島）



校島をバックに行われた、特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」の総開会式

特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」は10月7日から17日まで、鹿児島県内で開催された。この大会は、コロナ禍で開催が3年延期となったため、特別大会として実施。鹿児島県での国体開催は1972年以来、51年ぶりだった。

会期前に実施された水泳などを含め、37の正式競技と特別競技の高校野球に選手、役員ら約2万3000人が参加。来年、佐賀県で開催される大会から「国民スポーツ大会（国スポ）」に名称が変更される。

大会は、東京が2年連続で天皇杯（男女総合優勝）と皇后杯（女子総合優勝）を獲得。開催地の鹿児島は健闘していずれも2位となった。

「国民スポーツ大会」の名称に

10月

野球（米大リーグ）



本塁打を放ち、ポーズを決める大谷選手

米大リーグの最優秀選手（MVP）が11月16日に発表され、アメリカン・リーグはエンゼルスの大谷翔平選手が前回に続く満票で、2年ぶり2度目の受賞を果たした。満票で2度の選出は史上初。複数回の受賞は日本勢で初めて。

大谷選手は、大リーグ6年目も投打の二刀流で活躍。打者として44本塁打を放って日本選手初の本塁打王に輝き、自己最高の打率3割4厘と、95打点をマークした。投手としては10勝5敗、防御率3・14、167奪三振の成績で、史上初となる2年連続の2けた勝利、2けた本塁打を達成した。

大谷選手は「投打のバランスがすごく良かった。それをより高いレベルでこなせた。個人的に、こうやって（MVPを）取れて特別なことだと思う」と喜びを話した。

大谷選手が2度目の最優秀選手

11月

野球（ワールド・ベースボール・クラシック）



優勝トロフィー掲げて喜ぶ大谷選手（中央）、栗山英樹監督（前列右から3人目）ら日本代表

第5回ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）は3月21日、米国のフロリダ州マイアミで決勝が行われ、日本が米国を3-2で下し、2006年の第1回、09年の第2回大会に次ぐ3大会ぶり3度目の優勝を遂げた。日本は準決勝でメキシコ、決勝では連覇を目指した米国を破るなど、1次リーグからの7試合すべてに勝った。決勝では1点リードの3回から小刻みに継続し、指名打者として出場していた大谷翔平選手（エンゼルス）が9回に投手として登板。無失点救援でチームを勝利に導き、文字通り投打二刀流を演じた。

最優秀選手に選ばれた大谷選手は「最高の結果になった」と喜びを表わした。吉田正尚選手（レッズ）ドソックスも1大会での最多記録を更新する13打点を挙げ、ベストナインに選ばれた。

日本が3大会ぶり3度目の優勝

3月

フェンシング（世界選手権）

フェンシング世界選手権の男子フルール団体で日本が金メダルを獲得した。世界選手権の団体での優勝は、日本勢では男女通じて初めて。

7月30日、イタリアのミラノで行われた同種目の決勝で、日本（松山恭助、敷根崇裕、飯村一輝、鈴木健太の4選手）が中国を45-35で下した。

決勝で日本は中国と競り合いながら、じわじわと点差を広げていった。チームが目指す「自分たちのプレーに集中すること」をメンバー全員が実行した結果だった。松山選手は「これからも歴史



優勝して喜ぶ（左から）飯村選手、敷根選手、鈴木選手、松山選手（AFP時事）

日本が男子フルール団体で初優勝

フェンシング世界選手権の男子フルール団体で日本が金メダルを獲得した。世界選手権の団体での優勝は、日本勢では男女通じて初めて。

7月30日、イタリアのミラノで行われた同種目の決勝で、日本（松山恭助、敷根崇裕、飯村一輝、鈴木健太の4選手）が中国を45-35で下した。

決勝で日本は中国と競り合いながら、じわじわと点差を広げていった。チームが目指す「自分たちのプレーに集中すること」をメンバー全員が実行した結果だった。松山選手は「これからも歴史

バスケットボール（Bリーグ）

バスケットボール男子のBリーグ年間王者を決めるチャンピオンシップ決勝（2戦先勝方式）が5月28日、横浜アリーナで第2戦が行われ、琉球ゴールデンキングス（西地区1位）が前日の第1戦に続いて千葉ジェッツ（東地区1位）を下し、2勝目を挙げて初優勝を果たした。

2016年からスタートしたBリーグで、西日本のチームが頂点に立つのは初めて。この日は史上最多の



決勝第2戦・第4クォーター、シュートを決める琉球のダラム選手（右）

1万3657人が入場した。敵しい守りで相手のシュートを止めるなど活躍した琉球のアレン・ダラーム選手が最優秀選手に選ばれ、「チーム全員で獲得できた優勝」と喜んだ。

琉球が初優勝

5月